

患者氏名

様

病名(左 · 右 大腿骨骨折)

治療(手術:人工骨頭置換術)

経過日時	入院（手術前日まで） （ / ）	手術日 （ / ）	手術翌日 （ / ）	手術後2日目 （ / ）	手術1週間目 （ / ）	回復期・亜急性期	退院後の治療計画
達成目標	手術準備ができる 安静を保つことができる 痛みが緩和できる	安静を保つことができる 不安な手術を受けることができる 痛みが緩和できる	肺塞栓・術後感染等の合併症がない 安静を保つことができる 血を抜くための管が抜ける事なく過ごせる	血を抜くための管が抜ける 脱臼しやすい姿勢をとらずに車椅子へ移ることができる	抜き系ができる 退院先を決めることができる	本人・家族が脱臼部位について理解できる 転倒せず移動、身の回り動作ができる	 退院後、指定された日に来院して下さい。 お薬があれば、続けて内服して下さい。 何か症状があれば、早めに受診して下さい。
治療処置薬剤	入院前まで服用されていたお薬を看護師に渡して下さい 特に高血圧・糖尿病・心臓病のお薬や血サラサラにするお薬を服用されている方はお知らせ下さい 足を重りて牽引し時間で巻き直します ベッド上で出来る運動を行います	朝のお薬は看護師がお持ちします 手術衣に着替えます 手術後は持続で点滴を行います 翌朝まで酸素とモニター管理し状態の変化を観察します 血を抜くために患部に管が入っています 機械を使用して管から出血した分の血液を戻します	抗生剤の点滴を行います 症状が安定していれば酸素とモニターを外します 痛みが和らぐように援助します	血を抜くための管を抜きます 管が抜けた後から中止薬を再開します 痛みが和らぐように援助します	抜き系します	退院、転院、転棟の検討	
リハビリ			毎日リハビリを行います ベッド上でのリハビリを開始します	リハビリ室でリハビリします			
検査	手術に必要な検査を行います （外来で行うこともあります）	手術後に手術室でレントゲンと採血をします	貧血チェックの為採血します		朝から採血します レントゲンの撮影をします	血液検査やレントゲン撮影を適宜行います	
活動安静度	ベッド上での安静が必要です	ベットで手術室に行きます	ベッド上での安静が必要です	車椅子へ移ることができます		退院先に合わせた移動が可能となります	
食事	手術前日は食事・水分の制限はありません	手術前は食事・水分は指示にそって食べられません 手術後1時間で水分を摂って頂きムセがない事を確認します 夕食より食事が始まります					
清潔	入浴できないためタオルで拭きます 洗面器・石鹸等の用意をして下さい	手術前に体をタオルで拭きます	入浴できないためタオルで拭きます	傷口を濡れない様に入浴します		能力に応じた入浴介助を行います	
排泄	トイレに行けない為オムツでの排泄になります			管が抜けた後からトイレに移ります		能力に応じた排泄介助を行います	
教育指導説明	手術の説明を致します 説明後、同意書に署名をして看護師に渡して下さい 介護保険についてお尋ねします	痛みや吐き気・気分不良等がありましたらすぐにナースコールをして下さい 色々な管に触らないようにしましょう	脱臼しやすい姿勢をとらないようにして下さい（あぐら もしくは 女座り） 移動方法の指導を行います		介護保険の説明を行います 本人・家族へ身の回り動作が安全に行えるように指導します	必要に応じて介護保険申請をするめ、取得後にサービス等の調整を行います 必要に応じて自宅訪問調査を行い、環境調整などのアドバイスをします	
服薬指導	持参されたお薬の作用、副作用について薬剤師が説明を行います。新しく薬が出た場合は、内服方法や作用・副作用について説明します						
栄養指導	入院前の食事の事をお尋ねします	あり なし					
観察	痛み・足の動き・痺れの観察をします 床ずれができていないか観察します 牽引がずれていないか観察します	管からの出血量や性状を観察します 体温・血圧等の測定をします 痛みの有無の確認をします	傷の状態の観察を行います				
在宅復帰支援計画	() 病状の安定を図り、安心して生活する為の支援を行います。 () 日常生活動作が維持できるような環境設定の提案や介助方法を家族・療養にかかわるスタッフへ指導します。 ()						

主治医：

印

令和 年 月 日

師長：

本人または家族の承諾サイン:

担当看護師：

【在宅復帰支援担当者】津田 香月 【担当MSW】4階北(香月) 5階北(栗津) 3階南(栗津) 4階南(増永) 5階南(中村)

【担当管理栄養士】 4階北(吉村) 5階北(松本) 3階南(吉村) 4階南(高宮) 5階南(高宮)

熊本セントラル病院

*注:入院期間は、現時点で予測されるものである・病名等は現時点で考えられるものであり、今後検査などを進めていくに従って変わりうるものである

書式番号:2000-2020